

IISORA 第12回シンポジウム 飯舘

被災後13年の飯舘村の被害実態、暮らし、村人の健康

主催：飯舘村放射能エコロジー研究会 (IISORA)
共催：NPO 法人エコロジー・アーキスケープ

2024年11月2日(土) 12時半～5時10分

11月3日 午前中は飯舘村内見学

場所：飯舘村交流センターふれ愛館ホール
参加者：どなたでもお気軽にご参加いただけます。
参加費：無料

オンライン中継予定 (IISORA の HP にお知らせ予定)

協力団体：R-DAN、原子力市民委員会、原子力資料情報室、原発事故被害者相双の会、国際環境 NGO FoE Japan、市民エネルギー研究所、日本環境会議 (JEC)、日本大学生物資源科学部内ケ崎万蔵研究室、高木仁三郎市民科学基金、チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西、BIOCITY、ふえみん婦人民主クラブ、福島の子どもたちとともに・湘南の会、福島原発事故被害から健康と暮らしを守る会

お問い合わせ / IISORA 福島シンポジウム事務局 tel : 090-6601-6786 email : sympo2024@iitate-sora.net

IISORA URL : <http://iitate-sora.net/>

絵：糸長浩司 未来への多原点的なつながり

被災後13年の飯館村の被害実態、暮らし、村人の健康

原発事故災害から13年経過したが、未曾有の激甚災害は継続中ともいえる厳しい状況、先の見えない状況であることに変わりません。その中においても、飯館村民は希望を持ち、飯館村内外で暮らししています。どこの場所でどう生きるか、家族や仲間と、仕事をどうするかを問いつづけています。

農山村地域での長期的な放射能汚染の実態を国は無視しています。そのような中での人間の健康、土・水・大気・植物の健康が心配です。その科学的解明と予測、その研究成果を被災者とともに学び、将来に向けた対策、飯館村人の生活、飯館村の大地の将来について考えていきたいと思えます。

プログラム

挨拶 糸長浩司 (IISORA)

総合司会 佐久間淳子 (IISORA)

1部 村人の部 12時40分～14時00分

菅野 哲 (村人) 初期被ばくとふるさと喪失の裁判

伊藤延由 (村人) 里山の幸(山菜・キノコ)の放射能汚染推移

佐藤八郎 (村会議員) 飯館村の13年と今後

渡辺富士男 (村人) 飯館行政区の今と悩み

資料提供 飯館村 「飯館村の現状と復興施策について」

休憩 14時00分～14時10分

2部 専門家の部 14時10分～16時00分

今中哲二 (IISORA) 飯館村の放射能汚染のこれまでとこれから

阪内 香 (元 琉球大学) ヤマトシジミにおける福島原発事故後の野外採集調査
：形態異常と個体数の推移

糸長浩司 (IISORA) 里山生活の課題(住宅、作物、蜂蜜)と健康、バイオマス発電と大規模風車

振津かつみ (IISORA) 原発事故被害から健康と暮らしを守る

3部 総合討議 16時05分～17時00分)

司会 糸長浩司

登壇者 発表者全員

会場との討論

まとめ 菅井益郎 (IISORA) 17時～17時10分

終了後 飯館村きこり で懇親会

11月3日 9時～13時 飯館村の現地見学

出発 ふれ愛館 駐車場 9時

解散 ふれ愛館 駐車場 13時

バス(福島交通) 11月2日(土) 福島駅東口発 9:50 飯館ふれ愛館前 11:07

飯館村ふれ愛館前 18:31 福島駅東口 19:56

11月3日(日) 飯館村ふれ愛館前 13:06 福島駅東口 14:31